



# Top Message

ごあいさつ

100年以上の歴史の中で培った  
様々な得意分野における  
多彩な知識を融合することで、  
新しい価値を創造してまいります。

代表取締役社長

佐藤 廣 士



株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

## 当上半期の業績

当社グループの第159期上半期(平成23年4月1日～平成23年9月30日)の連結業績についてご報告申し上げます。

当上半期のわが国経済は、第1四半期に3月の東日本大震災のため生産水準が大幅に低下いたしました。第2四半期には、震災の影響も薄らぎ回復に向かいましたが、円高の急進によりその基調は緩やかなものとどまりました。海外では、欧州における金融不安や、中国における金融引き締めの影響が見られつつも、新興国を中心に緩やかな成長が持続しました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鋼材やアルミ圧延品の販売数量が、震災の影響により、自動車

向けを中心に前年同期を下回りました。一方、中国における油圧ショベルの販売台数は、4月以降、金融引き締めの影響により需要が急激に減少したものの、春節明けの旺盛な需要を取り込んだことにより、平成23年1月～6月を通しては、前年同期を上回りました。

以上のような状況に加え、機械事業部門や資源・エンジニアリング事業部門において大型案件の売上が集中したことや、鋼材価格が上昇したことなどにより、当上半期の売上高は、前年同期に比べ380億円増収の9,600億円となりました。一方、鋼材やアルミ圧延品販売数量の減少や鉄鋼主原料価格の上昇などの影響により、営業利益は、前年同期に比べ178億円減益の519億円、経常利益は、前年同期に比べ108億円減益の385億円、当期純利益は、前年同期に比べ120億円減益の173億円となりました。

## 当期の配当について

当社は、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。これに基づき、当期の中間配当につきましては、1株につき1円といたしました。事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

## 今後の取組みについて

本年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの尊い命が失われ、また多くの方々が大変な困難に今なお立ち向かっておられます。私自身、当社グループの東北の拠点の状況確認を含め、現地に足を運びましたが、復興には長い時間が必要であると痛感いたしました。これまで当社グループでは、義捐金や建設機械の提供、グループ警備会社による被災地域のパトロールの協力などを行なってきておりますが、こうした活動に加えて、防災・災害復旧のための製品や電力事情に対応する省エネ製品・技術の提供など企業活動を通じて貢献してまいりたいと考えております。

当社グループを取り巻く環境は、欧州の金融不安、円高、タイの洪水被害による懸念材料など、不透明感が増しております。しかしながら、新興国経済の成長を背景とした海外での需要増や、再生可能エネルギーの利用をはじめとした省エネルギーに関するビジネスチャンスの拡大など、変化も見受けられます。これらは、一見急速なものに見えますが、当社グループが中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」で想定した環境認識と、方向性において大きく異なるものではありません。よって、これまでの取組みを継続し強化することが当社グループの成長につながるものと考えております。

この上半期においても、新興国を中心に今後も伸長すると見込まれる海外需要の取込みに向けた施策として、海外展開を進め、溶接事業部門では韓国やインドに販売会社を設立いたしました。また、機械事業部門で中国の大手圧縮機メーカーへの資本参加により非汎用圧縮機の日本・アメリカ・中国の三極生産体制を確立したほか、資源・エンジニアリング事業部門で還元鉄プラントの調達・販売拠点を中国に設立するなど、当社のオンリーワンの技術・製品の世界展開を着実に進めております。

更に、今後の需要構造の変化、例えば、省エネルギー・低炭素社会への移行に対応すべく、新しい技術の開発や展開も進めています。足下では、素材系事業においては、強度と加工性を兼ね備えた当社開発の1,180MPa級ハイテンが自動車ボディ骨格の主要部品に世界で初めて採用されるなど、軽量化による自動車の燃費向上に対応しています。機械系事業では、これまで利用できなかった低位の工場排熱や地熱、温泉などの熱源を利用した発電システムや、未利用の蒸気を活用することのできる発電機や圧縮機、低燃費の建設機械などを開発、拡充しております。

当社グループは、100年を超える歴史の中で、多様な事業において得意な分野を築いてまいりました。これからも、得意分野を伸ばすのはもちろんのこと、バランスのとれた事業構造を採ることにより、環境の変化に柔軟に対応してまいります。また、各事業の多彩な人材や情報、アイデア、知識を融合することで、新しい価値を創造し、当社グループ独自の成長を目指してまいります。株主の皆様におかれましてはなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年11月

### 連結

#### 売上高

**9,600 億円**  
(前年同期比 +4.1%)



#### 営業損益

**519 億円**  
(前年同期比 △25.6%)



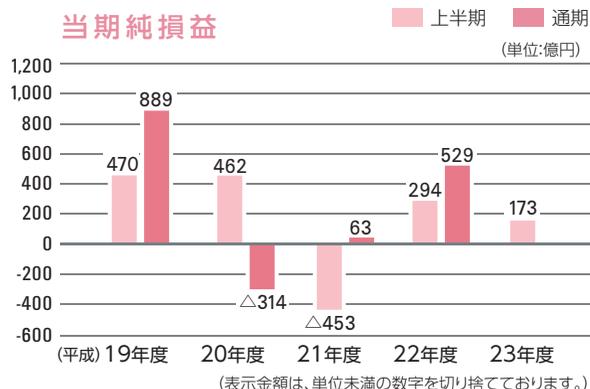
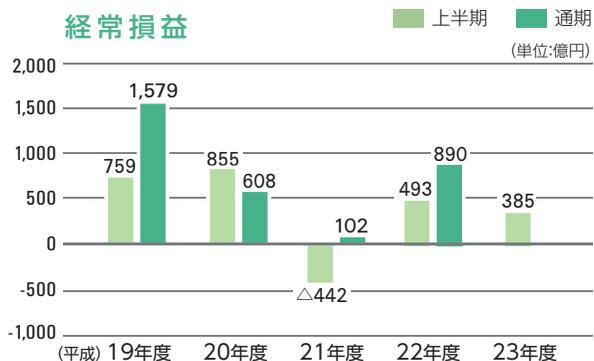
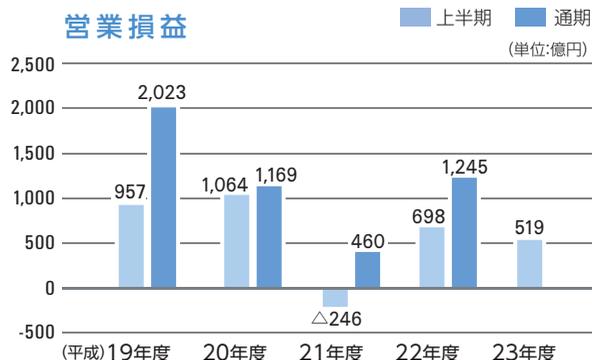
#### 経常損益

**385 億円**  
(前年同期比 △21.9%)



#### 当期純損益

**173 億円**  
(前年同期比 △41.1%)



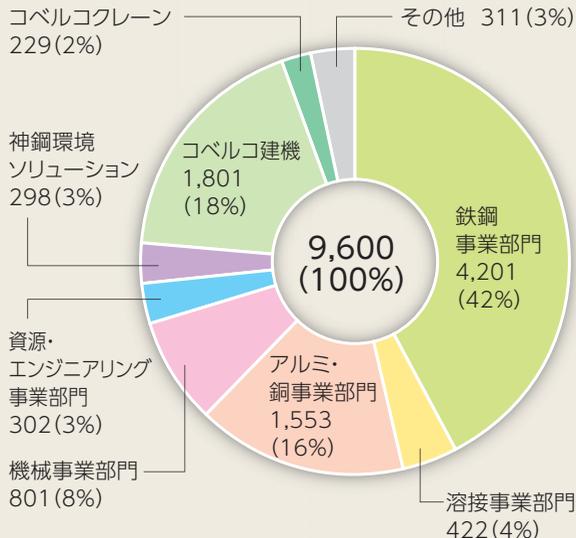
## 当上半期の概況

当上半期のわが国経済は、第1四半期に大幅な生産水準の低下をもたらした東日本大震災の影響が第2四半期には薄らぎ、回復に向かいましたが、円高の急進により、その基調は緩やかなものにとどまりました。海外では、欧州における金融不安や、中国における金融引き締めの影響が見られつつも、新興国を中心に緩やかな成長が持続しました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鋼材やアルミ圧延品の販売数量が、震災の影響により、自動車向けを中心に前年同期を下回りました。一方、中国における油圧ショベルの販売台数は、4月以降、金融引き締めの影響により需要が急激に減少したものの、春節明けの旺盛な需要を取り込んだことにより、当上半期を通しては、前年同期を上回りました。

以上のような状況に加え、機械事業部門や資源・エンジニアリング事業部門において大型案件の売上が集中したことや、鋼材価格が上昇したことなどにより、当上半期の売上高は、前年同期に比べ380億円増収の9,600億円となりました。一方、鋼材やアルミ圧延品販売数量の減少や鉄鋼原材料価格の上昇などの影響により、営業利益は、前年同期に比べ178億円減益の519億円、経常利益は、前年同期に比べ108億円減益の385億円、上半期の純利益は、前年同期に比べ120億円減益の173億円となりました。

事業別売上高(平成23年度上半期) (単位:億円)



(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額322億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額9,600億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

## 事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



### 鉄鋼事業部門

**4,201 億円**  
(前年同期比 +1.6%)



震災や円高の影響により鋼材の需要が低迷しました。

- 鋼材販売数量は、震災や海外市場の低迷、円高の影響で、前年同期を下回る。
- 鋼材販売価格は、原材料の高騰に対し製品価格への転嫁に努め前年同期を上回る。
- 造船向け販売価格の下落の影響などから鍛鋼品の売上高は前年同期比減少。

- チタン製品の売上高は、新興国のインフラ整備需要増加で前年同期比増加。
- 経常利益は、販売数量の減少や主原料価格の上昇により、前年同期比56億円減益の35億円。



厚板工場  
粗圧延機



## 溶接事業部門

**422 億円**  
(前年同期比 +13.8%)



溶接材料の需要が堅調に推移し、販売数量が増加しました。

- 溶接材料の販売数量は、東南アジア、欧米、ロシアの需要が堅調に推移し、前年同期比増加。
- 溶接システムの売上高は、中国の建設機械分野の需要が旺盛で前年同期比増加。
- 経常利益は、円高の影響から、前年同期比並の21億円。



アーク溶接ロボット  
ARC MAN™-GS



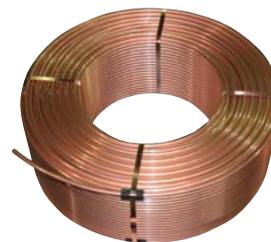
## アルミ・銅事業部門

**1,553 億円**  
(前年同期比 +0.2%)



銅管の販売数量は堅調も、アルミ圧延品、アルミ鋳鍛造品、銅板条の需要は低迷しました。

- アルミ圧延品販売数量、アルミ鋳鍛造品の売上高は、震災の影響による自動車向需要の低迷で、ともに前年同期比減少。
- 銅管の販売数量はエアコン向けを中心に堅調に推移するも、銅板条の販売数量は、半導体向け需要の低迷で減少。
- 経常利益は前年同期比27億円減益の70億円。



銅管のコイル



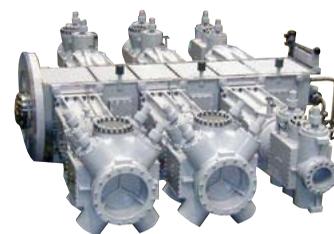
## 機械事業部門

**801 億円**  
(前年同期比 +11.8%)



石油精製・石油化学業界向けなどの需要が堅調に推移しました。

- 石油精製・石油化学業界向けの圧縮機を中心に需要が堅調に推移。
- 当事業の受注高は前年同期比並の687億円。上半期末の受注残高は1,499億円。
- 経常利益は、前年同期比29億円減益の56億円。



大型往復圧縮機



## 資源・エンジニアリング 事業部門

**302 億円**

(前年同期比 +43.3%)



大型還元鉄プラントの売上の計上により売上高は増加するも、経常利益は減少しました。

- 受注高は大型還元鉄プラントを受注した前年同期と比べると、56.4%減の208億円。
- 当上半期末の受注残高は840億円。
- 経常利益は前年同期比8億円減益の6億円。



FASTMET®プロセスによる  
製鉄ダストリサイクルプラント



## 神鋼環境 ソリューション

**298 億円**

(前年同期比 △0.6%)



廃棄物処理関連事業の大型案件を受注しました。

- 廃棄物処理関連事業の大型案件を受注し、受注高は前年同期比47.1%増の519億円。
- 上半期末の受注残高は571億円。
- アフターサービス分野需要の堅調な推移とコスト削減効果により、経常利益は前年同期に比べ2億円増益の14億円。



相模原市南清掃工場



## コベルコ建機

**1,801 億円**

(前年同期比 +2.6%)



東南アジアや国内の販売台数が増加しました。

- 中国での販売台数は前年同期比増加も金融引き締め影響により需要は低迷。
- 需要が堅調な東南アジアや、震災からの復旧に関連して需要が増加した国内で、販売台数は前年同期を上回る。
- 円高の影響を受け、経常利益は前年同期並の185億円。



超小旋回ミニショベル  
SAVER[SK38UR]



## コベルコクレーン

**229億円**  
(前年同期比 △1.7%)



海外需要が増加しました。

- 北米、東南アジア、中東を中心とした海外需要の増加に支えられ、販売台数は前年同期を上回る。
- 経常利益は、円高の影響により、前年同期並の1億円。



Mastertech Gシリーズ

etc

## その他

**311億円**  
(前年同期比 +3.0%)



分譲事業、賃貸事業がともに前年同期並で推移しました。

- 神鋼不動産(株)において、分譲事業、賃貸事業が概ね前年同期並の水準で推移。
- (株)コベルコ科研のターゲット事業で需要が低迷。
- 経常利益は、前年同期比5億円増益の26億円。



金属の微細構造を原子レベルで解析する3次元アトムプローブ装置



ジークレフ宝塚 武庫山

## 平成23年度(2011年度)連結業績見通し

	平成23年7月28日発表	平成23年10月31日発表	(参考) 平成22年度連結業績
売上高	1兆9,900億円	1兆9,500億円	1兆8,585億円
営業利益	750億円	750億円	1,245億円
経常利益	500億円	500億円	890億円
当期純利益	200億円	200億円	529億円
1株当たり当期純利益	6円66銭	6円66銭	17円63銭

● 鉄鋼事業部門 ● 溶接事業部門 ● 機械事業部門 ● 資源・エンジニアリング事業部門 ● コベルコ建機

### 2011 (平成23年)

4月

コベルコ建機

コベルコ建機のインド現地法人  
「KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT.LTD.」  
が油圧ショベルの生産を本格スタート

5月

資源・エンジニアリング事業部門

還元鉄プラントを販売する米国子会社のミドレックス社が、中国に現地法人「米徳雷克思治療技術服務(上海)」を設立

機械事業部門

中国の圧縮機メーカーへ資本参加

中国における非汎用圧縮機の需要拡大に対応するため、中国の圧縮機メーカー「無錫圧縮機股份有限公司」に資本参加しました。同社とはこれまでも技術供与などを通じて良好な関係を築いてきましたが、資本参加後は更なる技術供与などにより、中国における非汎用圧縮機の生産拠点として、既にある日本、米国の生産拠点とあわせ、圧縮機事業のグローバル展開を推進してまいります。

6月

溶接事業部門

インドに販売拠点となる新会社を設立

溶接材料の販売等を行なう新会社を、インドに設立しました。このほか、本年4月に韓国にも販売会社を設立するなど、積極的な海外展開を進めています。

8月

機械事業部門

スクリュ式小型蒸気発電機および小型蒸気圧縮機「スチームスターシリーズ」の新機種を発売

当社は、スクリュ圧縮機を利用した蒸気関連省エネ機器「スチームスターシリーズ」の新機種の発売を開始しました。

蒸気は様々な製造現場で幅広く活用されていますが、蒸気を利用する過程でロスが発生しています。当社では、これまでロスとして利用できずにいた蒸気エネルギーを有効活用して発電する小型蒸気発電機「スチームスター」を2007年に商品化し、受注を着実に伸ばしてきています。

この度新たに、使用できる蒸気の圧力をこれまでより高い範囲でも可能にした機種や、圧力が低下した蒸気を高圧の蒸気に再生する機種を開発し、発売を開始しました。当社は、既存の機種と併せて、従来利用されていなかった余剰蒸気を活用する方法を提案し、エネルギーの有効利用に貢献してまいります。

9月

鉄鋼事業部門

鞍山鉄鋼集団と中国における自動車用冷延ハイテンの生産合併会社設立にむけ検討を開始



現地生産機(20トン級油圧ショベル)



スチームスター

# 環境への取組みと 社会との共生

神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

## ■環境経営基本方針

『グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上』

—— グループの環境力向上 ——

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

1. 環境に配慮した生産活動
2. 製品・技術・サービスでの環境への貢献
3. 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

## ■「第37回優秀環境装置表彰事業・会長賞」を受賞

神鋼環境ソリューションの「汚泥焼却用省エネルギー・温室効果ガス削減型循環炉『高効率二段燃焼炉』」が(社)日本産業機械工業会の主催する第37回優秀環境装置表彰事業\*において会長賞を受賞しました。

下水処理における温室効果ガスの抑制対策として、下水汚泥焼却炉から排出される亜酸化窒素( $N_2O$ =地球温暖化係数は二酸化炭素の310倍)の排出量削減は重要な課題です。従来は、燃焼温度を高温化させることで削減を図っていましたが、燃料消費量が増加するという問題がありました。

同社では、燃料消費量を増加させることなく高温化(炉内に局所高温部を形成する意)することを目的として、従来の二段燃焼技術を応用し、 $N_2O$ の発生を従来炉より85%削減できる「高効率二段燃焼炉」の開発に成功しました。

今回の受賞は、燃費の低減と温室効果ガス削減の両立を実現したことが大きく評価されたものです。



兵庫西流域下水汚泥広域処理場向け下水汚泥焼却・溶融設備

\* 優秀環境装置表彰事業:(社)日本産業機械工業会の表彰制度で、環境保全技術の研究・開発および優秀な環境装置の普及促進を図ることを目的としたものです。

## ■高効率・小型バイナリー発電システム 「マイクロバイナリー」の開発・商品化

神戸製鋼はこのほど、地熱や工場排熱等を利用して発電する、高効率・小型バイナリー発電システム「マイクロバイナリー」(型番:MB-70H)を開発し、10月より販売を開始しました。システムの最大発電端出力は70kWで、100kW以下クラスでは、国産初の商品となります。

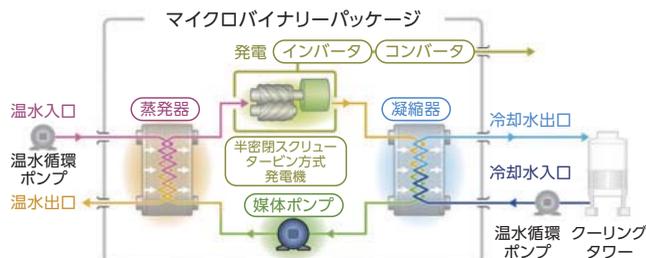
バイナリー発電とは、加熱源により沸点の低い作動媒体を加熱・蒸発させてその蒸気でタービンを回し発電するシステムで、産業排熱や地熱等を利用するものです。

「マイクロバイナリー」は、このバイナリー発電装置を世界初の半密閉型スクリュータービン方式で商品化したもので、70~95℃の温水、もしくは温水に変換できる廃液やガスなどの熱源から発電するバイナリー発電システムです。このシステムにより、100℃以下の工場等の排温水に加え、温泉水や地熱資源、バイオマス由来の熱源、太陽熱などの、未利用の再生可能エネルギーを利用した小規模・分散型のグリーン電力発電システムの構築が可能です。

当社は今後も、省エネ・環境をキーワードに、様々なお客様へのエネルギーソリューションを提供してまいります。



マイクロバイナリー MB-70H 外観



〔バイナリー発電システムによる70kW発電の一例〕

## 社会貢献への取組み／ラグビーを通じての活動

### ラグビーの普及活動

神戸製鋼コベルコスティーラーズは、全国各地の小中学校をはじめ、ラグビースクールなどへ選手が訪問し、指導を行なっています。また、新たなラグビーファンの拡大へ向け、ラグビー体験教室などを通じ、普及活動に取り組んでいます。

2005年度より全国高等学校ラグビーフットボール大会と全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会に特別協賛しているほか、2016年リオデジャネイロオリンピックで正式種目となる7人制ラグビーに向け、今年度より女子7人制ラグビー大会（日本初の女子高校生の公式大会）も開催し、女子選手の育成にも取り組み、ラグビーの普及活動とスポーツ振興に努めています。

神戸製鋼グループは、今後も、こうした活動を継続し、社会との共生を目指してまいります。



ラグビースクールの様子



### 募金活動

平成13年度より行なってきた、特定非営利活動法人「日本せきずい基金」への募金活動をジャパンラグビートップリーグ2010-2011の神戸製鋼コベルコスティーラーズ出場試合会場にて引き続き行ないました。



チャリティーリストバンド

また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の復興支援のため、チャリティーリストバンドを作製、販売しています。

コベルコスティーラーズ、そして神戸製鋼グループは阪神大震災の際、多くの皆様からのご支援をいただいたことで復興を遂げ、笑顔を取り戻すことができました。今度は、東日本大震災で被災された方々に再び笑顔を取り戻していただきたいという想いを込め「SMILE AGAIN」と刻んだリストバンドを作製し、販売しています。本製品の収益金は、日本ラグビーフットボール協会を通じて、日本赤十字社に、震災被害に遭われた方への義損金として寄付いたします。

# Corporate Data

## 事業分野

### 鉄鋼事業部門

(平成23年9月30日現在)

条鋼(普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼)、鋼板(厚板、中板、薄板<熱延・冷延・表面処理>)、鋼片、鋳鍛鋼品(船用部品・電機部品・産業機械部品等)、チタンおよびチタン合金、鉄粉、鋳物用銑、製鋼用銑、スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線、電力卸供給

### 溶接事業部門

溶接材料(各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス)、溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、溶接関連試験・分析・コンサルティング業

### アルミ・銅事業部門

アルミ圧延品(飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板、アルミ箔)、銅圧延品(半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、復水管、空調用銅管)、アルミニウム合金およびマグネシウム合金鋳鍛造品(航空機用部品、自動車用部品等)、アルミ加工品(自動車用部品、建材、建設用仮設資材等)

### 機械事業部門

エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高圧装置、真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、各種プラント(製鉄圧延、非鉄等)、各種内燃機関

### 資源・エンジニアリング事業部門

製鉄プラント(還元鉄)、各種プラント(ペレタイジング、石油化学等)、原子力関連プラント、砂防・防災製品、土木工事、新交通システム

### 神鋼環境ソリューション

水処理プラント、廃棄物処理プラント、化学・食品関連機器

### コベルコ建機

油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ

### コベルコクレーン

クローラークレーン、ラフテレーンクレーン、作業船

### その他

不動産開発・建設・分譲・仲介・リフォーム、不動産賃貸・ビルマネジメント、マンション管理、特殊合金他新材料(ターゲット材等)、各種材料の分析・解析、高圧ガス容器製造業、超電導製品、有料老人ホームの運営、総合商社

## 連結子会社および持分法適用会社 [206社]

(平成23年9月30日現在)

### 鉄鋼事業部門：40社

日本高周波鋼業株式会社、神鋼特殊鋼管株式会社、神鋼建材工業株式会社、神鋼神戸発電株式会社、神鋼物流株式会社、神鋼ボルト株式会社、堺鋼板工業株式会社、株式会社神鋼エンジニアリング & メンテナンス、株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ、\*神鋼鋼線工業株式会社、\*関西熱化学株式会社、\*株式会社テザックワイヤロープ、\*プロテック コーティング CO. 他

### 溶接事業部門：23社

エヌアイウエル株式会社、青島神鋼溶接材料有限公司、コウベ ウェルディング オブ コリア CO.,LTD. 他

### アルミ・銅事業部門：26社

株式会社コベルコ マテリアル銅管、神鋼リードミック株式会社、サン・アルミニウム工業株式会社、コウベ アルミナム オートモーティブ プロダクツ LLC、コウベ プレシジョン テクノロジー SDN.BHD.、コウベ エレクトロニクス マテリアル(タイランド) CO.,LTD.、シンガポール コウベ PTE.LTD. 他

### 機械事業部門：17社

コベルコ・コンプレッサ株式会社、神鋼造機株式会社、神鋼圧縮機製造(上海)有限公司、\*無錫圧縮機股份有限公司 他

### 資源・エンジニアリング事業部門：18社

ミドレックス テクノロジーズ ,INC. 他

### 神鋼環境ソリューション：6社

株式会社神鋼環境ソリューション、神鋼環境メンテナンス株式会社 他

### コベルコ建機：36社

コベルコ建機株式会社、東日本コベルコ建機株式会社、西日本コベルコ建機株式会社、成都神鋼工程機械(集団)有限公司、成都神鋼建設機械有限公司、杭州神鋼建設機械有限公司、成都神鋼建機融資租賃有限公司、タイ コベルコ コンストラクション マシナリー LTD.、コベルコ インターナショナル シンガポール CO.,PTE.LTD.、\*コベルコ コンストラクション マシナリー アメリカ LLC 他

### コベルコクレーン：11社

コベルコクレーン株式会社 他

### その他：29社

神鋼不動産株式会社、株式会社コベルコ科研、神鋼投資有限公司、コウベ スチール USA ホールディングス INC.、\*神鋼商事株式会社、\*日本メディカルマテリアル株式会社 他

(注)※印は持分法適用会社であります。

## 取締役および監査役、執行役員

(平成23年9月30日現在)

取締役社長(代表取締役)  
佐藤 廣士

### ■本社

取締役副社長(代表取締役)  
賀屋 知行

常務執行役員  
川崎 博也

執行役員  
山口 貢

取締役副社長(代表取締役)  
藤原 寛明

常務執行役員  
金子 明

執行役員  
森地 高文

専務取締役  
関 勇一

常務執行役員  
花岡正 浩

常務執行役員  
沖田 誠治

執行役員  
杉崎 康昭

### ■鉄鋼事業部門

取締役副社長(代表取締役)  
\*山口 育廣

常務執行役員  
宮脇 新也

執行役員  
藤井 晃二

常務執行役員  
尾上 善則

執行役員  
宮下 幸正

執行役員  
後藤 隆

常務執行役員  
塚本 晃彦

執行役員  
岩佐 道秀

執行役員  
水口 誠

常務執行役員  
梅原 尚人

執行役員  
河瀬 昌博

### ■溶接事業部門

専務取締役  
\*粕谷 強

常務執行役員  
高村 実朗

### ■アルミ・銅事業部門

専務取締役  
\*高橋 徹

執行役員  
佐藤 孝彦

専務執行役員  
下村 良介

執行役員  
柴田 順行

### ■機械事業部門

取締役副社長(代表取締役)  
\*重河 和夫

常務執行役員  
榎木 一秀

執行役員  
大濱 敬敏

### ■資源・エンジニアリング事業部門

取締役副社長(代表取締役)  
\*松谷 高志

専務執行役員  
田中 順

常務執行役員  
眞部 晶平

### ■社外取締役

取締役  
北畑 隆生

取締役  
山内 拓男

(注)※印は、各事業部門長であります。

監査役(常勤)  
大越 年祝

監査役(社外監査役)  
池田 義一

監査役(社外監査役)  
沖本 隆史

監査役(常勤)  
宮崎 純

監査役(社外監査役)  
佐々木 茂夫

## 会社の概要

(平成23年9月30日現在)

- 創 立 明治38年9月
- 資 本 金 2,333億1,324万8,065円
- 発行済株式総数 31億1,506万1,100株
- 株 主 数 229,192名
- 従 業 員 数 10,540名

## 事業所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜町二丁目10番26号  
☎078(261)5111(大代表)

東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川五丁目9番12号  
☎03(5739)6000(大代表)

支 社 大阪・名古屋

支 店 北海道(札幌市)・東北(仙台市)・  
新潟(新潟市)・北陸(富山市)・  
四国(高松市)・中国(広島市)・  
九州(福岡市)・沖縄(那覇市)

海 外 ニューヨーク・シンガポール・上海  
(注)[海外]には現地法人を含めております。

研 究 所 神戸

製鉄所・工場 〈鉄鋼〉加古川・神戸・高砂  
〈溶接〉藤沢・茨木・西条・福知山  
〈アルミ・銅〉真岡・長府・大安  
〈機械、資源・エンジニアリング〉高砂・播磨

### 神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、下記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

# 株式のお預け先をご確認ください

※ご一読ください

このページをご一読いただき、ご確認くださいませようお願いいたします。

## 1. 証券会社にお預けでない株式はありませんか？

- I. 証券会社にお預けになっていない当社株式は、三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」にて管理しております。「特別口座」では単元株式の売買はできません。証券会社の口座へ移管されることをお奨めします。
- ※「特別口座」とは、平成21年1月の株券電子化の際に、証券会社にお預けられていない株式を管理するために、当社が開設した口座のことです。
- II. 証券会社にお預けの株式数と、下記のご所有株式数が異なる場合には、その差異が、特別口座に記録されている可能性があります。(配当金関係書類に株式数が記載されています。)

ご所有株式数  
株

ここに、株主様がご所有されている株式数を記載しています。

※『第159期中間配当金領収証』または『第159期中間配当金計算書』は、この冊子に同封されています。

## 2. 「特別口座」から証券会社の口座への株式の移管の方法

証券会社に口座を  
開設する。

すでに証券会社に株式の取扱いができる口座をお持ちであれば、新たに開設の必要はありません。



三菱UFJ信託銀行に、  
振替用の請求用紙を  
請求する。



送られてきた請求用紙に  
必要事項を記入・押印して、  
三菱UFJ信託銀行に  
送付する。



これで  
手続きは  
完了です。

証券会社の口座に  
株式が移管されます。

<特別口座についてのお手続きお申込み先・お問い合わせ先>

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777



## 工場見学会参加者募集のご案内

当社は株主の皆様にご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様工場見学会を実施いたします。  
**今回ご覧いただく工場は、加古川製鉄所(兵庫県加古川市)**  
 でございます。つきましては、下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。



見学工場：加古川製鉄所

対象者：平成23年9月30日現在、当社株主  
 1,000株以上をご所有の株主様

### 工場見学会の概要

申込番号	実施日時 (平成24年)	集合場所	集合時刻	解散場所・予定時刻
①	3月4日	JR加古川駅近辺	8:50	JR加古川駅近辺 12:50頃
②	3月4日	JR加古川駅近辺	13:15	JR加古川駅近辺 17:15頃
③	3月5日	JR加古川駅近辺	8:50	JR加古川駅近辺 12:50頃
④	3月5日	JR加古川駅近辺	13:15	JR加古川駅近辺 17:15頃

- ※JR加古川駅は、JR山陽本線(JR神戸線)沿線
- ※JR加古川駅までの所要時間:JR三ノ宮駅から新快速で約30分  
 JR大阪駅から新快速で約50分
- ※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

募集人数：360名(各回90名) ※募集人数には同伴者を含みます。

以下の点につき、あらかじめご了承ください。  
 ※工場見学会コースは徒歩での移動となります。途中何ヶ所か階段がございます。

- ※ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。  
 抽選の結果は2月上旬にご通知する予定です。
- ※同伴者は1名まで(小学生以上)とさせていただきます。

※以下の場合、ご応募は無効とさせていただきます。

- 株主様ご本人からのご応募でない場合  
 (同伴者様のみのお応募・参加はできません。)
- 同伴者様を2名以上ご記入の場合
- 申込番号を2つ以上選択されている場合、もしくは1つも選択されていない場合
- 株主1名様につき、2枚以上ご応募された場合

応募方法：同封の参加申込はがきに必要な事項をご記入のうえ、ご返送ください。  
 (対象者にのみはがきを同封しております。)

**【締切日:平成24年1月5日(木)到着有効】**

参加費：無料

※ただし、集合・解散場所(JR加古川駅)までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。

お問い合わせ先：株式会社神戸製鋼所 法務部 工場見学会係  
 TEL 078-261-4067

受付時間 10:00~17:00(土・日、祝日、その他会社の休業日を除く)

### これまでの株主様工場見学会開催状況のご報告(過去5回分)

当社では、株主様工場見学会を8回開催してまいりましたが、いずれの回も、全国から多数のご応募を頂戴しております。毎回多数のご応募をいただき、厚く御礼申し上げますとともに、今回も皆様のご応募をお待ちしております。

#### 〈これまでの開催実績(過去5回分)〉

	日時	開催場所	募集人数	ご応募総数
第4回	平成21年11月	高砂製作所	240人	2,890通
第5回	平成22年 3月	加古川製鉄所	300人	3,318通
第6回	平成22年11月	真岡製造所	160人	1,216通
第7回	平成23年 3月	神戸製鉄所	200人	3,935通
第8回	平成23年11月	高砂製作所	240人	2,853通



工場見学会の様子(真岡製造所)

## 株 主 メ モ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月

基準日

定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日

中間 9月30日

(その他必要のあるときはあらかじめ公告します。)

公告方法 電子公告

(当社ホームページをご覧ください。)

<http://www.kobelco.co.jp>

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

### 株式に関するご案内

当社の株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下のとおりです。

#### ①証券会社にお預けの株式について

お預けの証券会社にお問い合わせください。

#### ②証券会社にお預けでない株式について

三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

〈郵便物および電話でのお問い合わせ先〉

〒541-8502

大阪府中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

**☎ 0120-094-777**

(通話料無料:オペレーターがお伺いいたします)

土・日、祝日を除く9:00～17:00

# KOBELCO

インターネット ホームページ <http://www.kobelco.co.jp>



この「株主の皆様へ」は環境に配慮し、漂白のために塩素を使用しない用紙、および植物油インキを使用しています。

# UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。